

# 日本建設技術グループ

## 平成23年度研究成果発表会

# 環境工法や 製造プラント



挨拶する原社長



粉末ゼオライト製造プラントを  
説明する松尾・水環境研究室長

冒頭、原社長が「バブル崩壊後20年が経過し、さらに今回の震災で景気の低迷が続くのではと懸念している。非常に厳しい時代だが、グループ会社が連携して地域社会に貢献していきたい。この研究成果発表会は8年目を迎えた。ミラクルソル工法は開発から15年、6種類の土木環境関係の材料を開発。21工法を全国に向け、工法の提案を行っている。さらに昨年10月に、経済産業省・中小企業庁から支援を受け、粉末ゼオライト化を大量生産するプラントが完成。この設備を使い、国内では100%輸入に頼っているリンを下水道から回収する事業を、出来れば来年度には市場に出していきたい。こうした事業を通じ、建設技術を活かしながら環境部門に挑戦し続け、オンリーワンの技術で、時代のニーズに合った選ばれる会社を目指していきたい」と挨拶した。

日本建設技術(株)(本社・唐津市北波多、原裕社長)グループは8日、同市の唐津ロイヤルホテルで恒例の平成23年度(第8回)研究成果発表会を開催した。社員や来賓など約180人が出席、環境・リサイクルに取り組む同社が開発した間伐材を活用した軟弱地盤補強工法や粉末ゼオライト製造プラントなどの成果を発表した。



研究成果発表会の会場

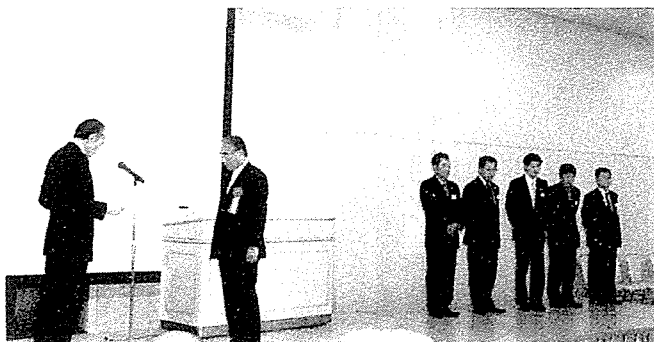
院議員が「今不況業種のひとつに数えられる建設業の中で、当社は際立った事業を展開されている」と祝辞を述べた。

引き続き、同社の林重徳・技術戦略本部長(佐賀大名誉教授)が演題「間伐材を活用した軟弱地盤工法『ラフト&パイル工法』の開発」▽松尾保成・技術研究所水環境研究室長が「粉末ゼオライト製造プラントの開発」▽原社長(企画戦略本部長)が「2010年度のあゆみとサークルボード緑化工法～間伐材の有効利用～」の演題で成果発表を行った。

これに対し、加藤久・加藤特許事務所長が「昨年、日本の特許出願件数が中国に抜かれた。皆が自信を失くし、日本の技術は危ない、と日ごろ感じている。日本建設技術の規模でこれだけ研究開発をやられている所はない。長年続けている事は凄いこと」と講評を述べた。

また、グループ企業のうち、建設・コンサル部門3社の成績優秀・資格取得者の表彰や新入社員の紹介も行われた。引き続き、二部の懇親会で社員や来賓らが共に交流を深めた。

【4月11日HP掲載】



原社長から表彰を受ける社員

この後、来賓の樋渡啓祐武雄市長が「原社長の特徴は、決断の速さと人を巻き込む力、好奇心の高さ」とし、付き合いのある孫正義ソフトバンク社長との類似点を掲げた。また、昨年11月に顧問に就任した岩永浩美前参議